

真鶴町立まなづる小学校

研究テーマ

粘り強く学ぶ子の育成～読みの視点を明確にした「読みたい」と思える授業づくりを通して～

1 実践の目的

昨年度は、『粘り強く学ぶ子の育成～入力方法の工夫から～』をテーマに研究を進めてきた。児童が他者の考えを受け止め、様々な情報の中から取捨選択する力を身に付け、自分の考えと繋げて出力していく力を伸ばしてほしいという思いから、「質の高い出力をするために、児童が情報を取り込む過程」を大切に、算数部と国語部の2部会に分かれて研究に取り組んだ。

1年間、授業研究を重ねていく中で、共通の課題として出てきたことが、読解力である。学習課題に粘り強く取り組んだり、協同的に学びを深めたりしていくためには、学習課題を正確に理解することが必須である。また、課題解決に向け、教材文や説明資料を正しく読みとる力を身につけることが基盤となる。そこで、今年度は国語科の領域「読むこと」を中心に研究に取り組み、読解力の育成に焦点をあてて研究に取り組むこととした。児童が、学習課題に添って、文中の大切な言葉を押さえながら正しく文章を読む力、想像を広げて読む力、課題解決のために繰り返し文章を読む力を育むことをねらい、『粘り強く学ぶ子の育成～読みの視点を明確にした「読みたい」と思える授業づくりを通して～』を研究テーマに設定した。

2 実践の内容

①授業実践研究

説明文ブロックと文学作品ブロックに分かれ、読みの視点を明確にした「読みたい」と思える授業実践研究を行った。提案授業は、ブロック提案とし、各ブロック3～4本ずつの授業提案を行う。

②読みの視点の明確化・共有化

文章の中の大事な言葉を見つけるヒントになる用語を「読みの視点」とし、各学年の説明文、文学作品のそれぞれの単元における「読みの視点」を系統表にまとめる。「読みの視点」は、用語ごとにカード化、教室内に掲示し、活用の方法を探る。

③語彙力の育成

児童が文章の内容を理解して読むためにも言葉

を一つ一つ大切に読み進めていきたい。そこで、教科書の巻末を活用して意味や使い方を確かめたりして学習に役立てていけるようにする。また、3年生以上の学年では、必要に応じて国語辞典やiPadを活用してよく分からない言葉、気になる言葉を調べて語彙を増やしていく。

④読書活動の推進

文章や資料を読み解くためには、「読むこと」に慣れることが大切である。そこで、継続的に読書活動の推進に取り組んでいくことにする。そして、言語活動に慣れ親しみ、情報を取り込む力を高めていきたい。そこで、図書委員やボランティアの方と連携を取り、通年で読書活動の推進に努めていく。

⑤講師の招聘

「読みの視点」を明確にした授業の在り方について山梨大学の茅野政徳先生にご教授いただきながら研究を進める。

3 実践の成果～授業実践研究から～

①授業実践研究

【説明文ブロック】

年間で3本の授業提案(2年生 どうぶつ園のじゅうい、3年生 すがたをかえる大豆、6年生 「鳥獣戯画」を読む)を行った。

説明文ブロックでは、説明的文章について学ぶ目的を「何が書かれているのか(内容)だけでなく、どのように書かれているのか(形式)を学び、その形式を使って表現する力を育てること」として研究を進めた。内容や形式を正しく読みとり、その単元で付けた力を習得させるために必要な「読みの視点」を明確にし、本単元の学習に入る前に、既習の「読みの視点」をプレ教材や既習教材で確認できるように単元を構成した。また、学んだ形式を生かして表現することができるような学習活動を取り入れることによって、筆者の意図や書きぶりに意識が向くようになってきた。

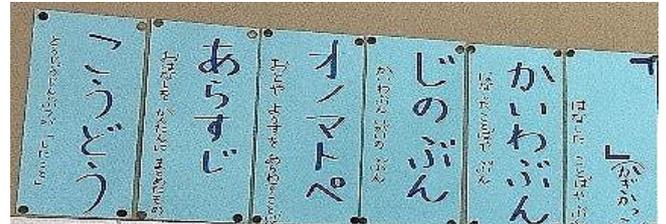
②成果

成果としては、読みの視点を明確にしたことで、分

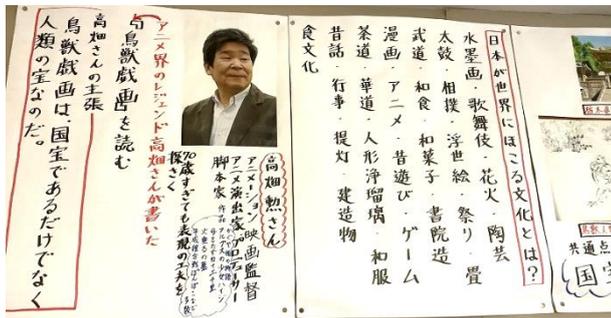
かりやすい学習内容、授業展開にすることができ、児童が見通しをもって取り組むことにつながった。その結果、課題に対し粘り強く取り組む様子も見られた。読みの視点として「筆者」を扱った際には、筆者の人となりを意識し、筆者の思いに寄り添って読み進めることにより、筆者の主張やそれを支える根拠、工夫された表現方法に注目できるようになってきた。教室に掲示した「読みの視点カード」は、その後の単元においても、確認したり活用したりすることができた。各学年、各単元における「読みの視点」をまとめた系統表も作成したことで指導すべきことが明確になり、次の学年のどの指導事項に繋がっていくのかが分かった。

関心を持続して楽しみながら学習に取り組むことができた。

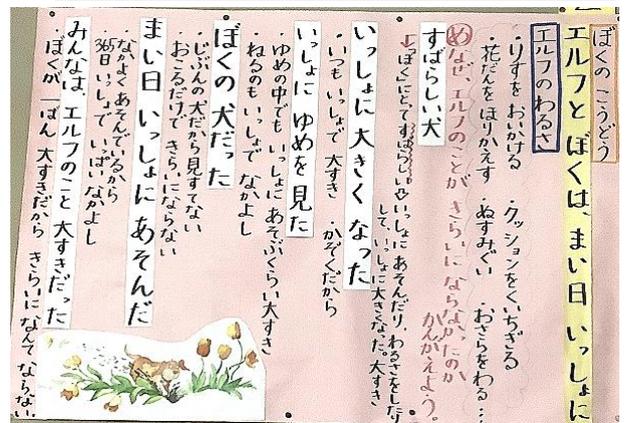
文学作品ブロックで扱った文章は、様々なジャンルの作品であり、文章中には普段聞きなれない言葉も多く出てきた。その際には、言葉の意味を丁寧に確認したり、実際に表現したりすることで読みを深めることにも繋げることができた。



教室に掲示している読みの視点（1年生）



「鳥獣戯画を読む」で活用した掲示物（6年生）



「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で活用した掲示物

【文学作品ブロック】

①授業実践研究

年間で4本の授業提案を（3年生 まいごのかぎ、4年生 ごんぎつね 5年生 注文の多い料理店、1年生 ずうっと、ずっと、大すきだよ）を行った。

文学作品ブロックでは、物語のイメージを広げ、深く読むために注目してほしい言葉として、読みの視点を習得できるような授業づくりに取り組んできた。例えば、『注文の多い料理店』の学習では、読みの視点を「色言葉」「繰り返しの言葉」「擬音語」の3つとした。手立てとして、読みの視点に着目させるために場面ごとに出てくる指令文（注文）を隠して教材文を提示し、どんな内容の指令文なのかを考えさせることで、視点となる言葉に注目しやすくした。その結果、本文を繰り返し読んだり、叙述に即して場面を豊かに想像したりしようとする姿につながった。

②成果

成果としては、意図する読みの視点に着目させることで、児童が本文全体に立ち返って登場人物の心情や場面の様子を捉えることができた。また、本文全体を通読するのではなく、授業で扱う場面だけを配布することで、長文読解に苦手意識をもつ児童も興味

4 今後の展開

①読みの視点系統表の整理

「読むこと」の各単元において、育成したい資質・能力を習得させるために必要な「読みの視点」を今年度の授業実践をもとに整理し、「読みの視点系統表」に反映させていく。また、教室に掲示した「読みの視点カード」をデータ化し、児童が学習中に自分のICT機器で確認できるようにしていくことで、「読みの視点」の定着につなげたい。

②活用力の育成

「読みの視点」に着目して文章を読むことで、教材文を繰り返し読み、一つ一つの言葉を大切にしながら学習課題について考える姿が育ってきた。今後も「読みの視点」を明確にした授業実践を積み重ね、児童が文章を正しく読み、内容についてより深く考えたり想像したりすることを実感できるようにしていきたい。そして、学んだことを別の教材文や他の教科の学習でも活用できるようにすることを目指して研究を進めていきたい。